

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 29 年 1 月 19 日 (2017.1.19)

【公表番号】特表 2014-531491 (P2014-531491A)

【公表日】平成 26 年 11 月 27 日 (2014.11.27)

【年通号数】公開・登録公報 2014-065

【出願番号】特願 2014-530957 (P2014-530957)

【国際特許分類】

C 0 9 K 3/18 (2006.01)

C 0 4 B 41/64 (2006.01)

【F I】

C 0 9 K 3/18 1 0 4

C 0 4 B 41/64

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 28 年 12 月 2 日 (2016.12.2)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

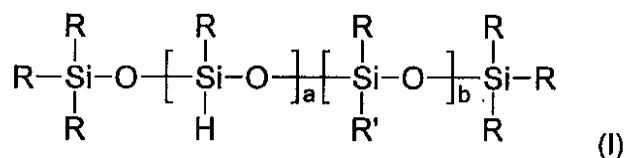
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

水と、少なくとも 1 つの界面活性剤と、下式を有するシロキサン共重合体とを含むエマルジョンを含む、多孔質基材処理用の撥水性組成物であって、

【化 1】



(式中、R は 1 ~ 3 個の炭素原子を有するアルキル基であり、a は 1 ~ 12 の値を有し、R' は 6 ~ 12 個の炭素原子を有するアルキル基であり、b = 2、(a + b) は少なくとも 5 であり、アルケンが実質的に存在しない。)

前記シロキサン共重合体は真空ストリッピングされたものであり、

前記組成物は ASTM D 5095 による 100 g / L 未満の揮発性有機成分を有する、撥水性組成物。

【請求項 2】

R はメチル基である請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

シリコン水素は部分的に加水分解される、又は完全に加水分解され対応するシラノールとなる、請求項 1 又は 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

b = a / 2 である、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 5】

(a + b) = 6 である、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 6】

(a + b) = 8 である、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 7】

前記組成物は A S T M D 5 0 9 5 による 5 0 g / L 未満の揮発性有機成分を有する、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】

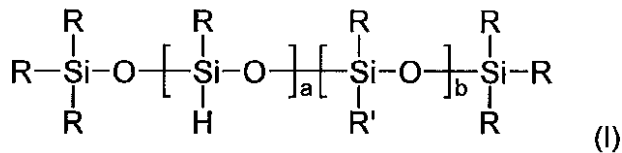
エマルションを調製する方法であって、

1) 以下を混合する工程と、

i) 水

ii) 下式を有するシロキサン共重合体であって、

【化 2】



式中、R は、1 ~ 3 個の炭素原子を有するアルキル基であり、a は 1 ~ 12 の値を有し、R' は、6 ~ 12 個の炭素原子を有するアルキル基であり、b は少なくとも 2 の値を有し、(a + b) は少なくとも 5 である、シロキサン共重合体

iii) 界面活性剤

2) 前記混合した構成成分を均質化してエマルションを形成する工程と、

3) 任意に追加の水と追加の成分とを混合する工程と、

を含み、

前記シロキサン共重合体は真空ストリッピングされたものであり、

前記エマルションは A S T M D 5 0 9 5 による 1 0 0 g / L 未満の揮発性有機成分を有する、方法。

【請求項 9】

完成基材に組成物を塗布することにより完成基材の撥水性を改善する、請求項 1 に記載の組成物の使用。

【請求項 10】

基材の製造前に又は製造中に出発物質に組成物を含めることによって基材の撥水性を改善する、請求項 1 に記載の組成物の使用。

【請求項 11】

前記基材はコンクリート又は鉄筋コンクリートである、請求項 9 に記載の使用。

【請求項 12】

前記基材は、石工、セメント、スタッコ、天然石若しくは人工石、セラミック、テラコッタレンガ、石膏ボード、繊維セメント板、若しくは他のセメントを含む生成物、パーティクルボード、木材プラスチック複合材、オリエンテッドストランドボード若しくは木材である、請求項 9 に記載の使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 5】

比較例 1 :

1 - オクテンをアルケンと Si H 基とのモル比 0 . 5 : 1 を用いてメチル水素直鎖状シロキサン (実施例 1 のシロキサン) と反応させた。混合物がストリッピングされる前に、生成物は、密度 2 0 で 0 . 9 1 3 g / m L 、及び A S T M D 5 9 0 5 による 1 5 % の揮発性成分を有した。したがって、液体の V O C 成分は 1 3 7 . 0 g / L であった。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 6

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 6 】

(実施例 2) :

比較例 1 で説明するように反応混合物を真空ストリッピングし、生成物は、粘度 2 0 で 4 7 m P a s、密度 2 0 で 0 . 9 2 4 g / m L、及び A S T M D 5 9 0 5 による 5 %の揮発性成分を有した。したがって、液体の V O C 成分は 4 9 . 6 g / L であった。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 7

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 7 】

比較例 2

1 - ヘキセンをアルケンと S i H 基とのモル比 0 . 3 : 1 を用いてメチル水素直鎖状シロキサン (実施例 1 のシロキサン) と反応させた。混合物がストリッピングされる前に、生成物は、密度 2 0 で 0 . 9 2 8 g / m L、及び A S T M D 5 9 0 5 による 1 5 %の揮発性成分を有した。したがって、液体の V O C 成分は 1 3 9 . 2 g / L であった。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 8

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 8 】

(実施例 3) :

比較例 2 で説明するように反応混合物を真空ストリッピングし、生成物は、粘度 2 0 で 2 5 m P a s、密度 2 0 で 0 . 9 3 7 g / m L、及び A S T M D 5 9 0 5 による 1 0 %の揮発性成分を有した。したがって、液体の V O C 成分は 9 3 . 7 g / L であった。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 9

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 9 】

比較例 3 :

1 - ヘキセンをアルケンと S i H 基とのモル比 0 . 5 : 1 を用いてメチル水素直鎖状シロキサン (実施例 1 のシロキサン) と反応させた。混合物がストリッピングされる前に、生成物は、密度 2 0 で 0 . 8 8 5 g / m L、及び A S T M D 5 9 0 5 による 1 3 %の揮発性成分を有した。したがって、液体の V O C 成分は 1 1 5 . 1 g / L であった。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 5 0

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 5 0 】

(実施例 4) :

反応混合物を真空ストリッピングした後、生成物は、粘度 2 0 で 2 7 m P a s、密度 2 0 で 0 . 8 9 3 g / m L、及び A S T M D 5 9 0 5 による 9 %の揮発性成分を有した。したがって、液体の V O C 成分は 8 0 . 4 g / L であった。